



平成18年10月27日

各 位

会社名 株式会社東京自働機械製作所
代表者 代表取締役社長 市川 孝
(コード番号 6360 東証2部)
問合せ先 常務取締役 前田臣一
(TEL. 03-3866-7171)

平成19年3月期中間および通期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、本年5月29日の平成18年3月期決算発表時に公表した平成19年3月期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)の中間期および通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

連結:

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期前回発表予想 (A)	7,850	852	821
〃 今回修正予想 (B)	7,015	741	436
増減額 (B-A)	△835	△111	△385
増減率 (%)	△10.6%	△13.0%	△46.9%
(ご参考)			
前中間期実績(平成18年3月期)	5,029	239	162
通期前回発表予想 (A)	10,950	562	390
〃 今回修正予想 (B)	11,200	439	181
増減額 (B-A)	250	△123	△209
増減率 (%)	2.3%	△21.9%	△53.6%
(ご参考)			
前通期実績(平成18年3月期)	9,717	118	370

(金額の単位:百万円)

個別：

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期前回発表予想 (A)	7,411	841	826
〃 今回修正予想 (B)	6,311	600	408
増減額 (B-A)	△1,100	△241	△418
増減率 (%)	△14.8%	△28.7%	△50.6%
(ご参考)			
前中間期実績 (平成18年3月期)	3,881	91	139
通期前回発表予想 (A)	9,660	508	400
〃 今回修正予想 (B)	10,042	334	194
増減額 (B-A)	382	△174	△206
増減率 (%)	4.0%	△34.3%	△51.5%
(ご参考)			
前通期実績 (平成18年3月期)	7,604	20	333

(金額の単位：百万円)

2. 修正の理由

① 連結業績予想

平成18年度中間期は、売上高78億5千万円、経常利益8億5千2百万円、当期純利益8億2千1百万円を予想しておりましたが、大型プロジェクトの一部の納期や一部包装ラインシステムの現地立上げ時期が下期へ後送りされるため、売上高は当初の予想値を下回ることが予測されます。また、大型プロジェクトの新規技術開発課題の克服に想定以上のコストを要することが判明したこと、また、当期より売上と原価の対応関係をより適正化させるため、製品売上計上後に発生する運転調整費用や当該製品の品質向上のため顧客の要請に応じて発生する部品や役務の無償提供等の費用を、品質保証引当金として当期の費用に見積計上することにより、経常利益、当期純利益ともに当初の予想値を下回るものと予測されますので、当初の業績予想値を修正いたします。

また、通期の見通しにつきましては、売上高は大型プロジェクトの需要増により当初の予想値を上回るものと見込めるものの、収益面では新規技術課題の克服に要するコスト負担が下期にも発生することが予想され、また品質保証引当金の計上に伴う原価負担増を見込むため、経常利益、当期純利益ともに当初の予想値を下回るものと予測されますので、当初の業績予想値を修正いたします。

② 個別業績予想

前項「連結業績予想」に記載の通り、平成 18 年度中間期は、大型プロジェクトや包装ラインシステム等一部大型案件の納期が下期へ後送りされたため売上高の減少が予測されます。また経常利益および当期純利益につきましては、新規技術課題克服のためのコスト増や当期からの品質保証引当金の計上に伴う原価負担増により減少が予測されますので、当初の個別業績予想値を修正いたします。

また、通期の見通しにつきましては、大型プロジェクトの受注が好調のため、当初の売上高の業績予想値を修正いたします。また、経常利益および当期純利益につきましては、新規技術課題コスト増および品質保証引当金の計上に伴う原価負担増を見込むため、当初の予想値を下回ることが予測されますので、当初の業績予想値を修正いたします。

以上